

# はにい

# ロールプレイ

平成26年1月21日

スクールバディ6人による『ロールプレイ』の実演です。自分たちで企画して、自分たちで内容を考えました。

まず、一人ずつが順に手を挙げて宣言します。

「司会者やります」

「加害者やります」

「被害者やります」

「傍観者やります」（会場やや笑）

「スクールバディやります」

「先生やります」



司会者：まず、被害者さんに質問です。どのようないじめを受けたのですか？

被害者：私は中学2年生の時に転校してきて、初めて友達になった人が加害者さんでした。

いつも話しかけてきてくれて、やさしい子だなあと思っていたんですけど、仲が良くなるにつれて、自慢をたくさんしてきて、自慢ばかりしてきたので、むかついてきて言い合ったんですよ。友だちだからそれくらい平気かなあって思ったんですけど、そのあと、無視されるようになって、他の人にまで無視されるようになりました。

司会者：その時の感情は？

被害者：何をしてしまったのかも分かんないし、不安な気持ちになりました。

司会者：では、加害者さん、いじめをしたようになったきっかけは何ですか？

加害者：きっかけは、さっき被害者さんが言ったように、言い合ったことで、とりあえず距離を置こうって決めたんですけど、それが周りにまで広がっちゃって、無視するようになったんです。

司会者：それを見た傍観者さんは？

傍観者：被害者さんと加害者さんは結構仲良かったんですけど、それを見てて、二人とも話さなくて、結局、ずーっと見ていてしまったという結果です。

司会者：加害者さんは、距離を置くって言っていましたが、それは周りの人に言ったわけではないんですよね。

加害者：むかついているって言うていたら、それが少しの関係から広がっていきました。

司会者：先生はそれを見ていていじめだとは思わなかったんですか？

先生：ただの喧嘩だと思っていました。

司会者：スクールバディさんは、被害者さんから相談を受けて、どのようなアドバイスをしましたか？

スクールバディ：被害者さんは、理由は分からないって言うていたので、もう少し様子を見て、聞けるような友達に、理由を知っているかを聞いてみるといいのではないかとア

ドバイスしました。

司会者：被害者さんはアドバイスを受けてどうしましたか？

被害者：私はいつも加害者さんと一緒にいたので、他にこういう話ができる友だちがあまりいなかったの、聞けなくて、あまり学校に行きたくないなって思うようになりました。

司会者：では、被害者さんと加害者さんは、これからどのような関係になりたいと思いますか？まず、被害者さんからお願いします。

被害者：加害者さんといえるのは楽しいし、前みたいに、また仲良くなりたいという気持ちがあるんですが、これを話して、ちゃんと気持ちをわかってもらえて、仲良くなりたいと思います。

司会者：加害者さんは。

加害者：言い合ったのは、必要だったろうし、ちゃんと分かり合えるように話をしたいと思っています。

ロールプレイはここまでです。

最後に、司会者が会場みんなに解説しました。

「スクールバディでは、ここまでしか助けることができませんが、これから先は、先生と加害者、被害者の話し合いをやって、解決されていくものです」

#### ● いじめ防止プログラム「スクールバディ活動」とは

いじめ対策において、いじめに無関心な傍観者をなくすことが効果的なアプローチだといわれています。NPO法人湘南DVサポートセンター (<http://kodomo-support.org/>) が推奨するこのプログラムは、暴力を使わずに対立を克服する方法や、自分も他人も大切にすることが暴力防止につながることを学ぶものです。4回のワークショップ（①いじめは許されない ②加害者の背景 ③大切な自分 ④伝えよういじめ防止）を中学校で実施し、終了後、有志の生徒を募り「スクールバディ活動」のスタートを支えます。

「スクールバディ活動」とは、生徒同士による支え合いのシステムです。いじめの相談ができる相談室を開室したり、いじめ防止のポスターを作成し学級に掲示してもらったりと、生徒が話し合いを重ね、主体的に活動しています。

---

かながわ元気な学校づくり通信『はにい』は、  
学校が元気になるように・・・  
先生の仕事を受けて  
学校に携わる大人たちがしていることを受けて  
そして、子どもたちの育ちを受けとる  
そんな、コミュニケーションツールです。 みんなで語り合いましょ。

専用メールアドレス： [inochi4027@pref.kanagawa.jp](mailto:inochi4027@pref.kanagawa.jp)